

## ① 国内学会

1. 丸井祐二, 輿座直人, 佐藤好嗣, 松村かおり, 薄場渉, 青木直人, 西智弘, 勝岡由一, 中澤龍斗, 佐々木秀郎, 力石辰也.  
腎移植後の再発性筋層非浸潤性膀胱癌に対する BCG 膀胱内注入療法.  
第 59 回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 2019.2
2. 勝岡由一, 佐々木秀郎, 河原崎宏雄, 寺下真帆, 輿座直利, 佐藤好嗣, 松村かおり, 青木直人, 薄場渉, 西智弘, 中澤龍斗, 丸井祐二, 柴垣有吾, 力石辰也.  
献腎待機外来設置の有効性について.  
第 52 回日本臨床腎移植学会, 2019.2
3. 大迫希代美, 谷澤雅彦, 寺下真帆, 河原崎宏雄, 今井直彦, 佐々木秀郎, 櫻井裕子, 力石辰也, 柴垣有吾.  
生体腎移植ドナーのフォローの現状と介入.  
第 52 回日本臨床腎移植学会, 2019.2
4. 菊地栄次.  
シンポジウム「尿路上皮癌におけるリンパ郭清の意義」: 尿路上皮癌のリンパ節転移陽性例に対する治療指針.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
5. 菊地栄次.  
ランチョンセミナー「TUR の極意 - PDD とバイポーラがもたらす新展開」: TURBT を再考する.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
6. 蜂須賀智, 北島和樹, 藤本瑛介, 力石辰也.  
当院における進行性尿路上皮癌に対するペムブロリズマブの初期使用経験.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
7. 藤本瑛介, 中澤龍斗, 西智弘, 蜂須賀智, 北島和樹, 佐々木秀郎, 丸井祐二, 力石辰也.  
当院における金属尿管ステント(Resonance)の長期成績の検討.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
8. 佐藤好嗣, 中澤龍斗, 輿座直人, 松村かおり, 青木直人, 薄場渉, 西智弘, 勝岡由一, 佐々木秀郎.  
当院における筋層非浸潤性膀胱癌に対するピラルビシン即時単回膀胱内注入療法の検討.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4

9. 浅沼宏, 武田利和, 松本一宏, 田中伸之, 森田伸也, 小坂威雄, 水野隆一, 篠島利明, 菊地栄次, 大家基嗣.  
シンポジウム「小児泌尿器科疾患：成育医療へのリレー」：尿道下裂の排尿機能・性機能に関する成育医療:晩期合併症に対する尿道再建術.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
10. 相馬理, 畠山真吾, 米山徹, 米山高弘, 橋本安弘, 佐々木秀郎, 斎藤満, 原田浩, 石井英樹, 田辺一成, 佐藤滋, 大山力.  
血清 N 結合型糖鎖変異プロファイルは生体腎移植後の拒絶反応の予測因子として有用である.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
11. 箱崎恭平, 武田利和, 松島将史, 田中伸之, 松本一宏, 森田伸也, 小坂威雄, 水野隆一, 篠島利明, 菊地栄次, 浅沼宏, 大家基嗣.  
腹腔鏡下およびロボット支援前立腺全摘術直後の高度尿失禁症例における尿失禁改善を予測する因子の検討.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
12. 田中伸之, 松本一宏, 金谷繁明, 武田利和, 森田伸也, 小坂威雄, 水野隆一, 篠島利明, 菊地栄次, 浅沼宏, Uhlén Per, 大家基嗣.  
3次元ライトシート顕微鏡による泌尿器癌微小環境の可視化:組織透明化の新規プロトコールと臨床応用.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
13. 井手広樹, 井上聡, 菊地栄次, 大家基嗣, 宮本浩.  
膀胱癌におけるアンドロゲン受容体シグナルによる放射線感受性の低下.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
14. 茂田啓介, 菊地栄次, 長谷川政徳, 荻原広一郎, 小坂威雄, 水野隆一, 宮嶋哲, 大家基嗣.  
ゲムシタピン耐性膀胱癌は癌蛋白 MUC1C を介して, シスプラチンへの交叉耐性を獲得する.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
15. 環聡, 篠田和伸, 森田伸也, 下田将之, 高橋遼平, 武田利和, 松本一宏, 小坂威雄, 水野隆一, 篠島利明, 菊地栄次, 浅沼宏, 大家基嗣.  
トロンボモジュリンアルファによる長時間冷保存下における腎障害の軽減戦略.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4

16. 森田伸也, 大橋正和, 高松公晴, 菊地栄次, 浅沼宏, 大家基嗣.  
当院における精巣内精子採取術の初期経験.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
17. 大村美波, 菊地栄次, 荻原広一郎, 箱崎恭平, 福本桂資郎, 金子剛, 宮崎保匡, 城武卓, 金井邦光, 長田浩彦, 大家基嗣.  
膀胱全摘除術の周術期補助化学療法から術後転移・再発までの期間が予後に及ぼす影響.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
18. 武田利和, 松本一宏, 伊東伸剛, 森田伸也, 小坂威雄, 水野隆一, 篠島利明, 栗原勲, 菊地栄次, 浅沼宏, 中塚誠之, 伊藤裕, 大家基嗣.  
アルドステロン産生副腎腫瘍に対する副腎温存手術 -超選択的副腎静脈サンプリングによる切除部位の決定と, 腹腔鏡下副腎部分切除術.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
19. 神谷黎, 松本一宏, 武田利和, 小坂威雄, 田中伸之, 森田伸也, 水野隆一, 篠島利明, 菊地栄次, 浅沼宏, 大家基嗣.  
前立腺癌の新 grade 分類における grade group 4 および 5 の妥当性の検証.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019. 4
20. 松本一宏, 高松公晴, 武田利和, 小坂威雄, 田中伸之, 森田伸也, 水野隆一, 篠島利明, 菊地栄次, 浅沼宏, 橋口明典, 陣崎雅弘, 大家基嗣.  
前立腺癌の腫瘍局在が診断・治療・予後に及ぼす影響.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
21. 楊井祥典, 松本一宏, 小坂威雄, 田中伸之, 武田利和, 森田伸也, 水野隆一, 篠島利明, 菊地栄次, 浅沼宏, 大家基嗣.  
「前立腺全摘術後 PSA 値に応じた理想的なフォローアップスケジュール」の検証.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
22. 本郷周, 小坂威雄, 楊井祥典, 安水洋太, 宮崎保匡, 水野隆一, 菊地栄次, 大家基嗣.  
G2/M 期制御因子を標的としたカバジタキセル耐性前立腺癌克服薬剤の In silico screening.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
23. 篠島利明, 田中伸之, 小坂威雄, 水野隆一, 菊地栄次, 浅沼宏, 大家基嗣.  
抗血栓療法が施行されている患者に対する接触式前立腺レーザー蒸散術 (CVP) の初期治療経験.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4

24. 村上哲史, 菊地栄次, 早川望, 大家基嗣.  
腎機能障害を有する進行性尿路上皮癌に対するシスプラチン減量化学療法の臨床的意義.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
25. 荻原広一郎, 菊地栄次, 岡部尚志, 服部盛也, 山下亮, 吉峰俊輔, 城武卓, 松本一宏, 水野隆一,  
原智, 小山政史, 庭川要, 大家基嗣.  
化学療法抵抗性尿路上皮癌に対するペムブロリズマブ治療の予後予測マーカー探索研究.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
26. 高松公晴, 水野隆一, 田中伸之, 武田利和, 森田伸也, 松本一宏, 小坂威雄, 篠島利明, 菊地栄  
次, 浅沼宏, 小山政史, 大家基嗣.  
血清 CRP 値による転移性腎細胞癌 2 次治療前中間リスク群の層別化.  
第 107 回日本泌尿器科学会総会, 2019.4
27. 早川望, 菊地栄次, 松本一宏, 大家基嗣.  
尿路上皮癌に対するペムブロリズマブ治療に関連し発症した続発性副腎皮質機能低下症の 2 例.  
第 92 回日本内分泌学会学術総会, 2019.5
28. 勝岡由一, 薄場渉, 寺下真帆, 相田紘一郎, 青木直人, 西智弘, 中澤龍斗, 丸井祐二, 柴垣有吾,  
佐々木秀郎.  
献腎移植後に心筋拘束を起こした一例.  
第 35 回腎移植・血管外科研究会, 2019.5
29. 薄場渉, 勝岡由一, 輿座直人, 松村かおり, 青木直人, 西智弘, 中澤龍斗, 寺下真帆, 丸井祐二,  
柴垣有吾, 佐々木秀郎.  
Rituximab 投与により改善し得た慢性 EBV 感染症.  
第 35 回腎移植・血管外科研究会, 2019.5
30. 相馬理, 畠山真吾, 西村紳一郎, 佐々木秀郎, 斎藤満, 原田浩, 力石辰也, 石田英樹, 田邊一成,  
佐藤滋, 大山力.  
血清 N 結合型糖鎖変異プロファイルは生体腎移植後の拒絶反応の予測因子として有用である.  
第 35 回腎移植・血管外科研究会, 2019.5
31. 輿座直利, 中澤龍斗, 青木直人, 松村かおり, 薄場渉, 西智弘, 勝岡由一, 佐々木秀郎, 菊地栄  
次, 吉岡まき, 相田紘一郎, 栗原毅.  
後腹膜に発生した褐色脂肪腫 (Hibernoma) の一例.

第 60 回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 2019.9

32. 松村 かおり, 薄場 渉, 西 智弘, 勝岡 由一, 菊地 栄次.

保存的対処を強いられ、治療に難渋した虚血性持続勃起症の 1 例.

日本性機能学会第 30 回学術集会/第 28 回日本性機能学会西部総会, 2019.9

33. 森田伸也, 箱崎恭平, 茂田啓介, 安藤利行, 菊地栄次, 大家基嗣.

陰茎海綿体内異物の一例.

日本性機能学会第 30 回学術集会/第 28 回日本性機能学会西部総会, 2019.9

34. 茂田啓介, 菊地栄次, 長谷川正徳, 荻原広一郎, 小坂威雄, 水野隆一, 宮嶋哲, 大家基嗣.

Gemcitabin resistant bladder cancer cells acquire cross resistance to cisplatin via MUC1C expression (Gemcitabin 耐性膀胱癌は癌蛋白 MUC1C を介して Cisplatin に交差耐性を獲得する).

第 78 回日本癌学会学術総会, 2019.9

35. 荻原広一郎, 菊地栄次, 田中伸之, 小坂威雄, 佐谷秀行, 大家基嗣.

The intravesical therapeutic effect of sulfasalazine for bladder cancer targeting to cancer stem cell (癌幹細胞を標的としたスルファサラジン膀胱内注入治療の効果).

第 78 回日本癌学会学術総会, 2019.9

36. 山本雄太郎, 方波見卓行, 西根亜実, 勝岡由一, 遠藤陽, 山崎有人, 笹野公伸, 田中逸.

副腎偶発腫として発見された正常血圧、非分泌型パラングリオーマの一例.

第 23 回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 2019.10

37. 菊地栄次.

ランチョンセミナー Case で考える転移性尿路上皮癌治療.

第 84 回日本泌尿器科学会東部総会, 2019.10

38. 蜂須賀智, 中澤龍斗, 佐藤好嗣, 藤本瑛介, 松葉怜, 佐々木秀郎, 方波見卓行, 菊地栄次.

ACTH 非依存性大結節性副腎皮質過形成 (AIMAH) に対し一期的腹腔鏡下片側左副腎摘除と対側右副腎部分切除術を施行した 1 例.

第 84 回日本泌尿器科学会東部総会, 2019.10

39. 荻原広一郎, 菊地栄次, 大家基嗣.

シンポジウム「転移性尿路上皮癌の一次化学療法後の治療指針」: 化学療法抵抗性尿路上皮癌におけるペムブロリズマブ療法の予後予測バイオマーカー.

第 84 回日本泌尿器科学会東部総会, 2019.10

40. 佐々木秀郎, 中澤龍斗, 岩田鉄平, 藤本瑛介, 目時弘彰, 勝岡由一, 相田紘一郎, 工藤浩也, 丸井祐二, 力石辰也.  
移植後に発症した悪性腫瘍の検討.  
第 55 回日本移植学会総会, 2019.10
41. 薄場渉, 佐々木秀郎, 勝岡由一, 寺下真帆, 今井直彦, 中澤龍斗, 丸井祐二, 柴垣有吾, 菊地栄次.  
移植後に経時的な心機能の改善を認めた 1 例.  
第 55 回日本移植学会総会, 2019.10
42. 丸井祐二, 輿座直人, 松村かおり, 薄場渉, 青木直人, 西智弘, 勝岡由一, 中澤龍斗, 佐々木秀郎, 菊地栄次.  
移植後の透析内シャント閉鎖は行うべきか?  
第 55 回日本移植学会総会, 2019.10
43. 吉野茂, 向井敏二, 小野元, 中村晴美, 佐々木秀郎.  
症例検討会を通じた警察との連携強化.  
第 55 回日本移植学会総会, 2019.10
44. 中村晴美, 小野元, 長屋文子, 吉野茂, 斉藤由美子, 佐々木秀郎.  
神奈川県における提供後院内スタッフのメンタルケアの現状について.  
第 55 回日本移植学会総会, 2019.10
45. 寺下真帆, 谷澤雅彦, 佐々木秀郎, 丸井祐二, 柴垣有吾.  
移植直後に de novo TMA を起こし移植腎喪失となった原疾患不明 PEKT の一例.  
第 55 回日本移植学会総会, 2019.10
46. Hakozaiki K, Kikuchi E, Ogihara K, Maeda T, Miyazaki Y, Kaneko G, Shirotake S, Yoshimine S, Kanai K, Ide H, Hara S, Kosugi M, Oyama M, Masuda T, Momma T, Tanaka N, Takeda T, Matsumoto K, Morita S, Kosaka T, Mizuno R, Asanuma H, Oya M.  
Could prophylactic urethrectomy at the time of radical cystectomy affect clinical outcome in bladder cancer patients treated with incontinent urinary diversion?.  
第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019.10
47. Hayakawa N, Kikuchi E, Mizuno R, Oya M.  
Clinical characteristics of urothelial carcinoma patients with liver metastasis who were treated with salvage chemotherapy.  
第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019.10

48. Ogihara K, Kikuchi E, Okabe T, Hattori S, Yamashita R, Yoshimine S, Shirotake S, Nakazawa R, Matsumoto K, Mizuno R, Hara S, Oyama M, Masuda T, Niwakawa M, Oya M.  
Pretreatment neutrophil-to-lymphocyte ratio is a novel biomarker for predicting worse clinical outcome in chemo-resistant urothelial carcinoma patients treated with pembrolizumab.  
第 57 回日本癌治療学会学術集会, 2019.10
49. 菊地栄次.  
パネルディスカッション「ここが変わった膀胱がん診療ガイドライン-第 5 版改訂のポイント解説-」: Stage IV 膀胱癌の治療.  
日本泌尿器腫瘍学会第 5 回学術集会, 2019.10
50. 丹羽直也, 田中伸之, 本郷周, 高松公晴, 水野隆一, 菊地栄次, 三上修治, 小坂威雄, 大家基嗣.  
尿路上皮癌における TNFAIP2 発現の臨床的意義と新規 EMT 誘導機構.  
日本泌尿器腫瘍学会第 5 回学術集会, 2019.10
51. 菊地栄次.  
教育セミナー 筋層非浸潤性膀胱癌診療の最新の話.  
第 69 回日本泌尿器科学会中部総会, 2019.11
52. 菊地栄次, 賀本敏行, 小林恭, 山本博之.  
NCD 運営委員会報告~NCD の現状と今後の展望: 泌尿器科学会における NCD 登録の現状と方向性.  
第 69 回日本泌尿器科学会中部総会, 2019.11
53. 菊地栄次, 賀本敏行, 小林恭, 山本博之.  
NCD 運営委員会報告~NCD の現状と今後の展望: 初年度登録データからの報告.  
第 69 回日本泌尿器科学会中部総会, 2019.11
54. 山本博之, 菊地栄次, 賀本敏行, 小林恭.  
NCD 運営委員会報告~NCD の現状と今後の展望: NCD 利活用の今後の展望.  
第 69 回日本泌尿器科学会中部総会, 2019.11
55. 菊地栄次.  
シンポジウム「膀胱がん治療における真のパラダイムシフトの幕開け」: 転移性膀胱癌治療効果予測バイオマーカーの可能性.  
第 69 回日本泌尿器科学会中部総会, 2019.11

56. 早川望, 菊地栄次, 鈴木重明, 大家基嗣.  
Pembrolizumab 投与後に重症筋無力症をきたした 1 例.  
第 69 回日本泌尿器科学会中部総会, 2019.11
57. 菊地栄次.  
教育セミナー 実臨床における転移性尿路上皮がん薬物治療の現状と課題.  
第 71 回西日本泌尿器科学会総会, 2019.11
58. 菊地栄次, 賀本敏行, 高橋正幸, 山本博之.  
NCD 運営委員会報告～NCD の現状と今後の展望：泌尿器科学会における NCD 登録の現状と方向性.  
第 71 回西日本泌尿器科学会総会, 2019.11
59. 菊地栄次, 賀本敏行, 高橋正幸, 山本博之.  
NCD 運営委員会報告～NCD の現状と今後の展望：初年度登録データからの報告.  
第 71 回西日本泌尿器科学会総会, 2019.11
60. 山本博之, 菊地栄次, 賀本敏行, 高橋正幸.  
NCD 運営委員会報告～NCD の現状と今後の展望：NCD 利活用の今後の展望.  
第 71 回西日本泌尿器科学会総会, 2019.11
61. 早川望, 菊地栄次, 知念克也, 栗原直人.  
確定診断が困難であった腎盂癌の 2 例.  
第 71 回西日本泌尿器科学会学術総会, 2019.11
62. 菊地栄次, 茂田啓介, 荻原広一郎, 武田利和, 松本一宏, 水野隆一, 大家基嗣.  
T3 腎盂尿管癌における Propensity Score Matching を用いた腹腔鏡と開放手術の予後比較.  
第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 2019.11
63. 佐々木秀郎, 中澤龍斗, 與座直利, 松村かおり, 青木直人, 薄場渉, 西智弘, 勝岡由一, 菊地栄次.  
Reduced Port と鏡視補助下小切開による根治的腎摘除の比較検討.  
第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 2019.11
64. 宇田川剛, 江東邦夫, 佐藤好嗣, 西智弘, 須山一穂, 菊地栄次.  
当院における複数回の TUL が必要となった症例の臨床的検討.  
第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 2019.11



65. 勝岡由一, 松村かおり, 菊地栄次.  
経尿道的前立腺切除術と経尿道的前立腺核出術同時期施行の術者への影響.  
第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会, 2019.11
66. 川名部新, 方波見卓行, 松葉怜, 中川朋子, 久保ゆい, 蜂須賀智, 相田芳夫, 原眞純, 田中逸.  
両側副腎摘出後も便秘の改善が得られない MEN2B の一例.  
第 29 回臨床内分泌代謝 Update, 2019.11

## ② 国際学会

67. Kohatsu Kaori, Sakurada Tsutomu, Yamada Shohei, Sato Hirotaka, Kojima Shigeki, Koitabashi Kenichiro, Kaneshiro Nagayuki, Shibagaki Yugo, Ryuto Nakazawa, Yoshioka Maki.  
Catheter repair by the nephrologist's forefinger for catheter dysfunction: experiences at two centers.  
39th Annual dialysis conference, 2019.2
68. Shigeta K, Kikuchi E, Abe T, Hagiwara M, Ogihara K, Takeda T, Matsumoto K, Mizuno R, Jinzaki M, Oya M.  
Could laparoscopic surgery have same long-term oncological outcomes as open radical nephroureterectomy in T3N0M0 upper tract urothelial carcinoma? A multicenter cohort study adjusted by propensity score matching.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
69. Anno T, Kikuchi E, Ogihara K, Oya M.  
Site specific differences in survival among bladder, renal pelvic, and ureteral urothelial carcinoma patients treated with radical surgery.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
70. Ogihara K, Kikuchi E, Shigeta K, Hagiwara M, Mizuno R, Oya M.  
The survival prediction with time of intravesical recurrence in upper tract urothelial carcinoma.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
71. Shigeta K, Kikuchi E, Hagiwara M, Abe T, Ogihara K, Mizuno R, Oya M.  
Simulating the surveillance duration of intravesical recurrence after radical nephroureterectomy: an individualized risk based approach applying the weibull model.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
72. Shigeta K, Kikuchi E, Hagiwara M, Abe T, Ogihara K, Mizuno R, Oya M.  
A novel risk based approach simulating oncologic surveillance according to smoking status after radical nephroureterectomy with upper tract urothelial carcinoma.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5

73. Hongo H, Kosaka T, Yanai Y, Yasumizu Y, Miyazaki Y, Tanaka N, Matsumoto K, Mizuno R, Kikuchi E, Oya M.  
Overcoming cabazitaxel resistance by G2/M regulating genes in castration-resistant prostate cancer.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
74. Takeda T, Takamatsu K, Teranishi Y, Hakozaiki K, Tanaka N, Matsumoto K, Morita S, Kosaka T, Mizuno R, Shinojima T, Kikuchi E, Asanuma H, Oya M.  
Risk factors for hemodynamic instability during laparoscopic adrenalectomy for pheochromocytoma.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
75. Kayama E, Kikuchi E, Hakozaiki K, Tanaka N, Kaneko G, Shirotake S, Miyazaki Y, Yokomine S, Maeda T, Kanai K, Oyama M, Nakajima Y, Hara S, Monma T, Oya M.  
Could a history of non-muscle invasive bladder cancer have a prognostic role in cT2-4aN0M0 bladder cancer patients treated with radical cystectomy and neoadjuvant chemotherapy?  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
76. Ogihara K, Kikuchi E, Okabe T, Hattori S, Yamashita R, Yoshimine S, Shirotake S, Matsumoto K, Mizuno R, Hara S, Oyama M, Masuda T, Niwakawa M, Oya M.  
Pretreatment neutrophil-to-lymphocyte ratio is a novel biomarker for predicting worse clinical outcome in chemo-resistant urothelial carcinoma patients treated with pembrolizumab.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
77. Matsumoto K, Niwa N, Hagiwara M, Kosaka T, Tanaka N, Takeda T, Morita S, Mizuno R, Shinojima T, Hara S, Kikuchi E, Asanuma H, Oya M.  
Type of patients in whom biochemical recurrence after radical prostatectomy can be observed without salvage therapy.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
78. Tamaki S, Shinoda K, Shimoda M, Morita S, Takahashi R, Kitaoka S, Tanaka N, Takeda T, Matsumoto K, Kosaka T, Mizuno R, Shinojima T, Kikuchi E, Asanuma H, Oya M.  
Kidney graft damage after long cold ischemia time is attenuated by recombinant thrombomodulin alpha in a rat kidney transplant model.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
79. Ogihara K, Kikuchi E, Hagiwara M, Matsumoto K, Mikami S, Saya H, Oya M.  
CD44 variant 9 expression is a novel indicator for identifying poor survival in patients with invasive urothelial carcinoma.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5
80. Matsumoto K, Kikuchi E, Yanai Y, Hayakawa N, Niwa N, Maeda T, Asanuma H, Oya M.  
Optimal subclassification system for intermediate-risk non-muscle invasive bladder cancer.  
The 114 American Urological Association Annual Meeting, 2019.5

81. Kikuchi E.  
Morning Seminar: Current therapeutic strategies for metastatic urothelial carcinoma.  
The 12th Triennial Meeting German-Japanese Confederation of Urology, 2019.6
82. Marui Yuhji, Yoza Naoto, Iwata Teppei, Matsumura Kaori, Usuba Wataru, Aoki Naoto, Fujimoto Eisuke, Metoki Hiroaki, Nishi Tomohiro, Katsuoka Yuichi, Aida Koichiro, Kudo Hiroya, Nakazawa Ryuto, Sasaki Hideo, Chikaraishi Tatsuya, Kikuchi Eiji  
Evaluation of the equations to estimate the renal function of kidney transplant recipients focusing on creatinine clearance.  
37th Annual Scientific Meeting, The Transplantation society of Australia and New Zealand 2019.7
83. Hayakawa N, Mizuno R, Kikuchi E, Oya M.  
Prospective study of tadalafil treatment in patients treated with prostate brachytherapy.  
17th Urological Association of Asia Congress, 2019.8
84. Ogihara K, Kikuchi E, Okabe T, Hattori S, Yamashita R, Yoshimine S, Shirotake S, Matsumoto K, Mizuno R, Hara S, Oyama M, Masuda T, Niwakawa M, Oya M.  
Pretreatment absolute monocyte count is a novel biomarker for predicting worse clinical outcome in chemo-resistant urothelial carcinoma patients treated with pembrolizumab.  
17th Urological Association of Asia Congress, 2019.8
85. Grande E, Galsky MD, Arijia JAA, De Santis M, Davis ID, Giorgi UD, Mencinger M, Kikuchi E, García-del-Muro X, Gumus M, Özgüroğlu M, Kalebasty AR, Park SH, Alekseev B, Schutz FA, Li J, Mecke A, Mariathasan S, Thåström A, Bamias A.  
IMvigor130: efficacy and safety from a Phase 3 study of atezolizumab (atezo) as monotherapy or combined with platinum-based chemotherapy (PBC) vs placebo + PBC in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma (mUC).  
ESMO Congress 2019, 2019.9
86. Bamias A, Grande E, Arijia JAA, De Santis M, Davis ID, Giorgi UD, Mencinger M, Kikuchi E, García-del-Muro X, Gumus M, Özgüroğlu M, Kalebasty AR, Park SH, Alekseev B, Schutz FA, Li J, Mecke A, Mariathasan S, Thåström A, Galsky MD.  
IMvigor130: Efficacy and safety of atezolizumab with or without chemotherapy in previously untreated metastatic urothelial carcinoma.  
39nd Congress of the Société Internationale d'Urologie, 2019.10
87. Arijia JAA, Galsky MD, De Santis M, Davis ID, Bamias A, Giorgi UD, Mencinger M, Kikuchi E, García-del-Muro X, Gumus M, Özgüroğlu M, Kalebasty AR, Park SH, Alekseev B, Schutz FA, Li J, Mecke A, Mariathasan S, Thåström A, Grande E.  
A Phase 3 study of atezolizumab (atezo) as monotherapy or combined with platinumbased chemotherapy (PBC) vs placebo+PBC in previously untreated locally advanced or metastatic urothelial carcinoma (mUC): IMvigor130.  
Global Congress on Bladder Cancer 2019, 2019.10

88. Hayakawa N, Kikuchi E, Ogihara K, Hattori S, Yoshimine S, Shirotake S, Okabe T, Yamashita R, Mizuno R, Oya M.  
Is the occurrence of higher adverse effects associated with better oncological outcome in Japanese metastatic urothelial carcinoma patients treated with pembrolizumab?  
11th European Multidisciplinary Meeting on Urological Cancers, 2019.10
89. Shigeta K, Kikuchi E, Hagiwara M, Abe T, Ogihara K, Mizuno R, Oya M.  
A novel risk based approach simulating oncologic surveillance according to smoking status after radical nephroureterectomy with upper tract urothelial carcinoma.  
ESMO Asia Congress 2019, 2019.11
90. Ogihara K, Kikuchi E, Okabe T, Hattori S, Yamashita R, Yoshimine S, Shirotake S, Nakazawa R, Matsumoto K, Mizuno R, Hara S, Oyama M, Masuda T, Niwakawa M, Oya M.  
Neutrophil-to-lymphocyte ratio is a useful biomarker for predicting worse clinical outcome in chemo-resistant urothelial carcinoma patients treated with pembrolizumab.  
ESMO Asia Congress 2019, 2019.11

### ③ その他

91. 遠藤拓, 杉下陽堂, 鈴木由妃, 岩端秀之, 阿部恭子, 澤田紫乃, 白石絵莉子, 高江正道, 洞下由記, 勝岡由一, 近藤春裕, 佐々木秀郎, 長谷川潤一, 菊地栄次, 鈴木直.  
MD-TESE にて精子を獲得した化学療法後無精子症の一例.  
聖マリアンナ医科大学医学会第 77 回学術集会, 2019.7
92. 宇田川剛, 江東邦夫, 菊地栄次.  
リンチ症候群に伴う腎癌の転移性病変に対して, ニボルマブが著効した一例.  
第 96 回神奈川県泌尿器科医会, 2019.7
93. 山田龍治, 勝岡由一, 志茂新, 遠藤陽, 佐々木秀郎, 與座直利, 松村かおり, 薄場渉, 青木直人, 西智弘, 中澤龍斗, 丸井祐二, 菊地栄次.  
原発性淡明型腎細胞癌と乳癌の腎転移を同時に認めた片側腎腫瘍の一例.  
第 96 回神奈川県泌尿器科医会, 2019.7